

ちまたし郷土



球磨郡深田村深田中学校
一年 福永裕一郎

ぼくのすんでいる深田村は球磨郡のほぼ中央に位置し、東西四・五キロメートル、南北六・五キロメートル、面積二一・〇四平方キロメートル、人口およそ二千三百人とあまり村の面積も広くないし、人口も少ない村です。深田村は農業と林業でなり立っています。とても緑の多い村で球磨川という日本三急流の一つといわれているとてもゆめいな川も流れています。この村は十六地区の集落があります。その中にとってもおもしろい名のついた集落が二区あります。それは、古町、向町という集落です。なぜおもしろいかというと、深田村という村の中に町という字のついている集落だからです。深田村には昔は集落ごとにいろいろな郷土芸能があったそうですが今では三つになりました。荒茂地区の（ししおどり）、庄屋地区の（槍おどり・太鼓おどり）、下里地区の（太鼓おどり）というこの三つの郷土芸能だけがのこっていて今でもおこなわれています。深田村には昔銅山がありました。

の銅が毎日馬車で駅まで運ばれたそうです。そのころはとても栄え、一時人口がふえたことがあり、その銅山のまわりにはたくさんのお家が立ちならび活気だった時代もありました。深田村には高山というゆめいな山があります。村の中心よりほぼ東北にある小高い山です。周囲二キロメートル、高さ九十メートル（標高二七五メートル）でこの山頂には昔城があったそうです。春はさくらがまんかいでそのため登山客があとをたちません。この村の村社は阿蘇神社ですが若宮神社ともいわれています。村社の祭りは毎年十一月二日におこなわれます。お寺は善正寺と城泉寺と二つあります。

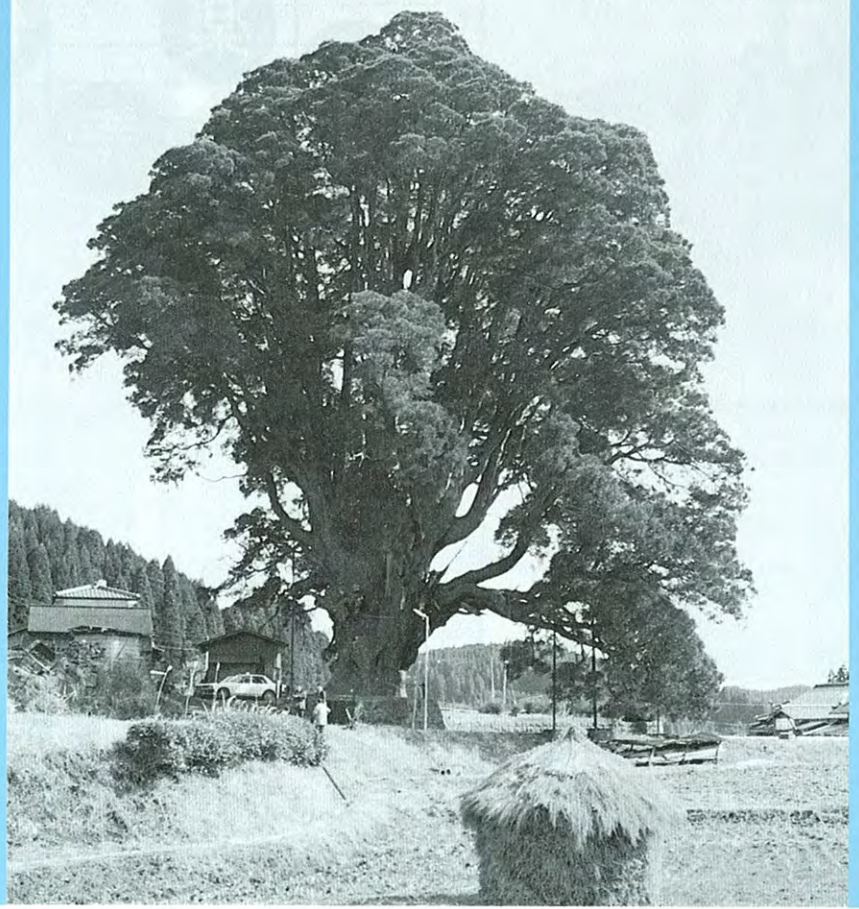
いまではこの村にも保健センターが作られ村の人たちの健康管理に役だっています。ぼくはこの村で生まれこの村で家族と生活していることはなによりたのしいことだと思っています。この緑の多い美しい深田村にうまれてとてもしあわせです。

告知板

②歌舞伎 演目／交響曲第六番「悲愴」チャイコフスキー作曲ほか 会場／大坂フィルハーモニー交響楽団 期日／七月四日（午後六時半） 会場／宇土市民会館 演目／長唄「手習子」ほか 出演／日本舞踊協会 期日／九月八日（午後六時半） 会場／水俣市文化会館 演目／セビリアの理髪師 出演／二期会 期日／九月二十五日（午後六時） 会場／八代市厚生会館 演目／熊谷陣屋ほか 出演／松竹大歌舞伎 期日／十一月十七日（午後六時） 期日／十一月十八日（午後五時） 会場／熊本市立劇場 期日／十一月十九日（午後六時半） 会場／宇土市民会館 期日／十一月十九日（午後六時半） 会場／宇土市民会館	①オペラ 演目／「世界の名曲」ほか 出演／東京混声合唱団 期日／七月二十八日（午後一時半） 会場／水俣市民会館 演目／くるみ割り人形 出演／日本ハレエ協会 期日／八月二十五日（午後一時） 会場／五名市民会館	④新劇 演目／「世界の名曲」ほか 出演／東京混声合唱団 期日／七月二十八日（午後一時半） 会場／水俣市民会館 演目／くるみ割り人形 出演／日本ハレエ協会 期日／八月二十五日（午後一時） 会場／五名市民会館	⑤文化庁子ども芸術劇場 無料 演目／「世界の名曲」ほか 出演／東京混声合唱団 期日／七月二十八日（午後一時半） 会場／水俣市民会館 演目／くるみ割り人形 出演／日本ハレエ協会 期日／八月二十五日（午後一時） 会場／五名市民会館	⑥文化庁少年芸術劇場 無料 演目／「傾城反魂香」ほか 出演／松竹株式會社 期日／八月五日（午後一時） 会場／宇土市民会館 演目／「傾城反魂香」ほか 出演／松竹株式會社 期日／八月六日（午後一時） 会場／宇土市民会館 演目／「傾城反魂香」ほか 出演／松竹株式會社 期日／八月六日（午後一時） 会場／宇土市民会館
--	--	---	--	---

文化庁移動芸術祭等のお知らせ
 県民の皆様は優れた舞台芸術を鑑賞していただくために文化庁と県教育委員会では、文化庁移動芸術祭・子供芸術劇場・青少年芸術劇場の三つの催物が、次の日程により県内各地で開催されます。多数の皆さんの鑑賞をおすすめします。

くまもとの文化財



阿弥陀杉

（阿蘇郡・小国町）

●国指定天然記念物

阿蘇郡小国町の阿弥陀杉は、幹囲二一・六メートル、樹高三八メートルあり、大きさ、形の良さ、どれをとっても熊本県下第一級である。

この阿弥陀杉は、あまりにも大きいため幹の途中に十数本の大きな枝があり、その大枝からさらに多くの小枝が分かれている。根本は空洞化しているが、その樹勢はいささかも衰えていない。

阿弥陀杉の名の由来は、かつてこの杉の下に阿弥陀仏が祭られていたことによる。現在その阿弥陀仏は近くの薬師堂に移されているが、地元住民にとっては阿弥陀杉そのものがまさに信仰の対象ともいえる。

明治三十五年、阿弥陀杉は人手に渡り、伐採されようとした。そこで北小国・南小国の村民は、彼らの募金（当時のお金で三百四十円）で買ひもどして両村の宝として後世に伝えた。

このような地元住民の熱意をうけて、今日も阿弥陀杉は県下最大の雄姿を誇っている。（昭和九年十二月二十八日指定）